

経営比較分析表

兵庫県 豊岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	下水道事業	小規模集合排水処理	12
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)
-	25.74	0.17	106.24

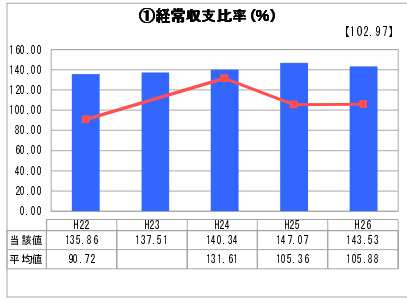
1か月20m³当たり家庭料金(円) 2,970

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
85,749	697.55	122.93
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
144	0.11	1,309.09

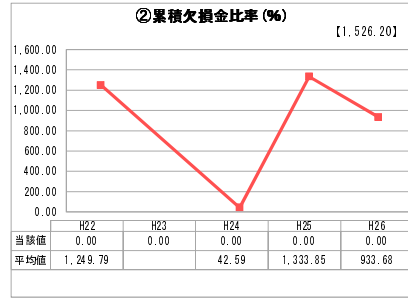
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成26年度全国平均

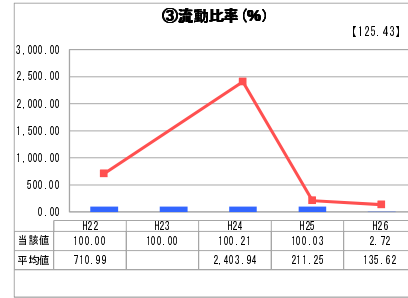
1. 経営の健全性・効率性



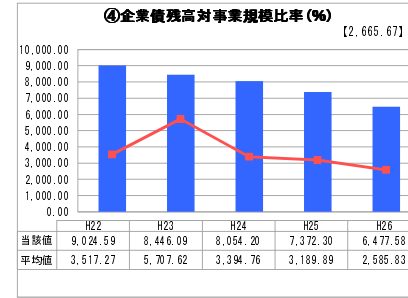
「経常損益」



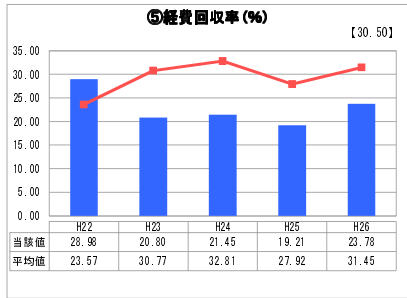
「累積欠損」



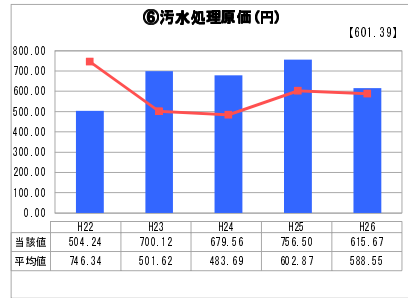
「支払能力」



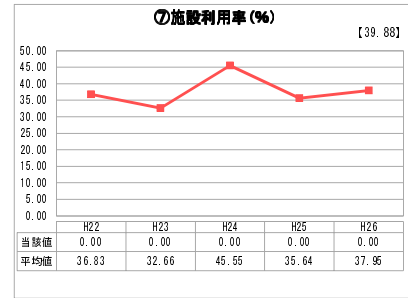
「債務残高」



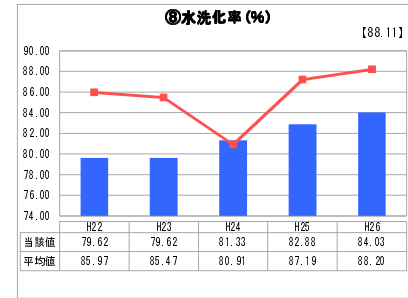
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

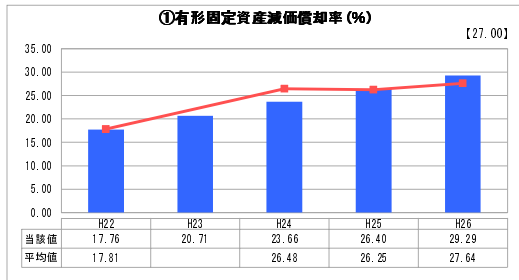


「施設の効率性」

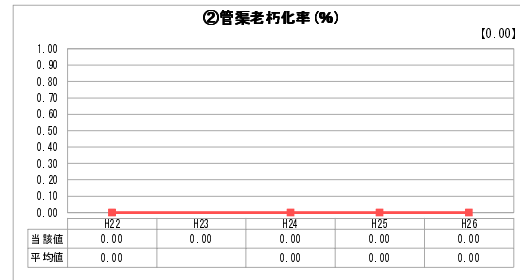


「使用対象の捕捉」

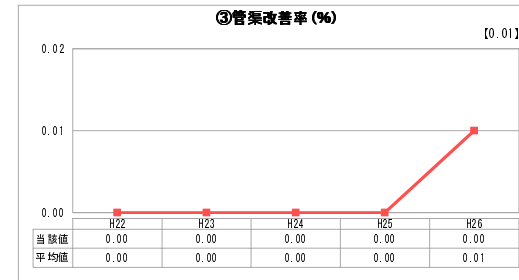
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支で単年度赤字でないものの、一般会計からの繰入金に依存している。
また、類似団体及び他事業と比較して、供用地域のほとんどが山間地域であるため、汚水処理原価が高く、下水道使用料収入では経費を到底賄えていない。
また、同じ理由で企業債残高対事業規模比率も高くなっている。
これらを改善するために、平成28年度に下水道使用料を改定し、水洗化を促進し有収水量の確保に努め、汚水処理原価を抑えていきたい。
また、企業債残高を少なくするべく起債の償還を着実にし、残高を少なくしていく。

2. 老朽化の状況について

類似団体よりも償却率が高く、施設の老朽化が進んでいる。
今後は、将来の運営状況を考慮し、投資の合理化に努める。

全体総括

依然として、一般会計からの繰入金に依存しており、独立採算による経営が出来ていない。
また、下水道使用料の収入だけでは経費を賄えず、水需要の減少により有収水量の増加も厳しい状況であるが、さらなる経費削減を図るため、業務の合理化、効率化に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。